

日本地震工学会 会長特別研究委員会

「首都圏における地震・水害等による複合災害への対応に関する委員会」最終報告会

趣旨：今後発生が懸念されている首都直下地震や集中豪雨による水害などに対して、人口や経済活動などが集中する首都東京に代表される巨大都市で想定される様々な災害の影響の複合的に評価し（マルチハザード評価）、どのような災害でも対応可能な標準化された対応策（オールハザード対応）の推進が求められています。「首都圏における地震・水害等による複合災害への対応に関する委員会」は大都市（特に中心市街地・産業施設）における地震・水害等による複合災害対策の現状と課題を整理し、今後の被害低減対策の方向性を検討することを目的として、安田前会長のもとに建築・土木・機械・メディア分野から専門委員を構成し、2014年度に発足し2016年3月で終了しました。その成果を学会内外に報告し、成果の普及と発展的継承を図るため報告会を開催いたします。

日時：2016年6月1日（水） 10:00～17:30

場所：東京電機大学北千住キャンパス 1号館 2階 1204教室

連携：SIP 防災⑦-2「首都圏複合災害への対応・減災支援技術」

参加費（最終報告書を含む）：会員・学生 1,000円、非会員 2,000円

交流会：参加費 2,000円

参加登録：報告会の参加希望者は、標題を「報告会の参加希望」とし、本文に交流会の参加の有無を明記し、5月26日（木）17時までにメールにて登録をお願いいたします

（送付先：wwa1070@ns.kogakuin.ac.jp；事務局・豊岡）

プログラム

午前（10時～12時）

あいさつ 安田 進（東京電機大学・日本地震工学会・前会長）

震災等による都市型複合災害の現状と課題：久田嘉章（工学院大学）

大都市の地震火災の危険性とその対策課題：加藤孝明（東京大学）

ライフライン施設のリスク評価と対策の現状：庄司 学（筑波大学）

施設単位での群集リスク評価と対策：末松孝司（ベクトル総研）

都市のリスク評価と街区・高層マンションの取り組み事例：増田幸宏（芝浦工業大学）

新宿駅周辺エリアの取り組み事例：村上正浩（工学院大学） 午前のみ

午後 1（13時～15時）

液状化による東京低地の被害と避難時の問題：安田 進（東京電機大学）

想定すべき水害ハザードと対策：大原美保（土木研究所）

地下街の取り組み事例：大森高樹（日建設計シビル）

北千住駅周辺エリアの取り組み事例：小林 亘（東京電機大学）

北千住エリアにおける二段階避難の有効性の検証：山下倫央（産総研）

産業施設の地震リスクマネジメント：中村孝明（篠塚研究所）

休憩（15時～15時20分）

午後 2（15時20分～16時40分）

機械設備の被害事例と機能維持に関する課題と対策：古屋 治（東京都市大学）

都市ガス事業者（東京ガス）の取り組み事例：猪股 渉（東京ガス）

電力会社の取り組み事例（耐震性向上と震災対応）：佐藤正行（東電設計）

防災情報と社会：黒沢大陸（朝日新聞）

総合討論（16時40分～17時30分）

交流会（18時～20時）